

科目ナンバー	D9203	要件	保育必修	授業形態	実習	対象学生	II A III C D
授業科目	保育実習 II						
実施期	前期	単位数	2単位	授業担当者	飯田 恵美子・西田 外美江		
<b>【科目の概要】</b> 一次実習の経験を踏まえ、目的や自己課題を明確にし、実習に臨めるようにする。子どもを観察し実態を把握した上で保育計画を立案し、実践する。また、保育者の子どもへの関わり方や環境を通しての保育計画を学びながら、自分なりに援助や環境を学び、自己評価につなげ理解を深める。							
<b>【この科目を通して獲得を目指す力】</b>							<b>【関連DP】</b>
ア	保育所の特性を理解し、子どもの観察、関わりの視点を明確にし、保育への理解を深める。						1-c 1-d
イ	手遊び、歌、表現遊びなど発達に応じた方法を習得し実践できる。						2-d
ウ	実習園の保育方針や指導計画に基づいた園行事を理解し、指導計画を立案し、実践することができる。						3-d
エ	実習を通して自己の課題を明確にし、保育者としての目標をもつことができる。						4-c
<b>【授業の内容】</b>				<b>【実施日】</b>	<b>【授業時間外学習の内容】</b>		
1	一次実習を通して自己課題の明確化			月 日	一次実習を振り返り、自己課題を明確にしておくこと		
2	保育所の役割と機能の具体的展開 ①養護と教育が一体となって行われる保育所保育			月 日	保育指針の関連ページを読んでおく(2時間)		
	②保育所の社会的役割と機能			月 日			
3	子どもの発達の再確認			月 日	乳幼児の行動観察や子どもの発達に応じた関わり方、また、保育者の観察等実習中での気づきをまとめておく。		
4	観察に基づく保育理解 ①保育所の生活の流れや展開の把握			月 日			
	②多様な保育の展開と保育士の業務			月 日			
	③子どもの心身の状態や活動の観察			月 日			
	④保育士の動きや子どもへの関わり			月 日			
	⑤環境を通して行う保育の理解・シラバスレベルチェック			月 日			
⑥入所している子どもの保護者支援			月 日				
5	指導計画及び教材 ①保育課程の理解			月 日	保育の流れをシュミレーションしておく。保育技術を高める(ピアノ、手遊び、絵本の読み聞かせ、導入他)。実習日誌や、授業で学んだ資料を参考にして実際の保育に応用する。		
	②指導計画に基づいた教材の作成			月 日			
	③指導計画の作成と保育実践			月 日			
6	責任実習の評価・反省・考察			月 日	責任実習を振り返り反省点を明確にして臨む。		
7	二次実習を通しての自己課題の明確化			月 日	実習を振り返り自己課題を明確にし、解決に向けて努力する。		
<b>【教科書・テキスト】</b> 実習の手引き(本学発行) 保育所保育指針解説書(フレーベル館)				<b>【成績評価の方法】</b> 学習態度・意欲等の履修状況 30% 実習日誌、実習評価 70% 実習先の評価が不可の場合は総合評価も不可である。			
<b>【参考書・教材】</b> 保育指導大百科事典 開 仁志(一藝社)							
<b>【履修要件及び履修上の注意事項】</b> ・実習までに必須科目の受験停止及び不合格がないこと。授業に出席し、レポートや課題を提出していること。実習園での実習成績が不合格の者は、単位を認めない。実習園では、実習生としてふさわしい態度や服装で参加すること。							
<b>【履修上の遵守事項】</b> 実習日誌は期限を厳守し、実習に際しても無遅刻・無欠席で臨めるようにすること。							
<b>【連絡先・オフィスアワー】</b> 連絡先：N13							
オフィスアワー：							

指標		基準	レベル 1	レベル 2	レベル 3
ア ①	保育所の役割や機能、生活の流れなどについての知識の習得		保育所の役割や機能について知り、理解している。	保育所の社会的役割や機能について自分の言葉で説明できる。	保育所の特性を理解し、具体的な例を挙げ、保育所の役割や機能、幼稚園との違い等説明できる。
ア ②	子どもの平均的な発達についての知識を基にした観察力		子どもの心身の発達について、人に話すことができる。	子どもの発達の道筋を知り、実習の中で、子どもの様子や行動を観察することができる。	実習中に、子どもと関わる中で、心身の状態や、発達、行動の要因等を考察することができる。
イ	手遊び、歌、造形表現等、子どもに分かりやすく伝えられる伝達力		年齢に応じた手遊び、歌遊びや造形活動について5個以上身に付けようとしている。	発達の道筋に応じた表現遊びや造形活動を3個以上学生同士で行うことができる。	発達の姿や状況に応じて表現遊びや造形活動を5個以上子どもの前で実践できる。
ウ	園の実態に合わせた指導計画の作成力		年齢に応じて、指導案の書き方の違いを述べることができる。	年齢やクラスの実態を基に、ねらい、内容、活動、援助を考え、指導計画を作成することができる。	作成した指導計画を基に、責任実習を行うことができる。
エ	自己課題を明確化し、保育士としての目標設定		理想の保育士像を3つ言える。	実習後の反省・評価から自己課題を見出し、自身の保育士としての目標を考えることができる。	保育士としての目標に向かって、自己課題を解決するよう努力している。
この科目を通して学んだこと、獲得できた力、できなかった課題等					